



千代田区立教育研究所

# 所 報

第82号

令和3年12月1日

## 誰一人取り残さない教育を目指して

千代田区立教育研究所  
所 長 山 本 真

千代田区の、平成30年度、令和元年度、令和2年度の不登校児童・生徒数は、以下の表のとおりとなっています。【単位（人）】

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
千代田区（小学校）	32（11.5）	51（17.0）	46（14.9）
千代田区（中・中等）	45（29.6）	53（26.8）	90（53.9）

※（ ）内の数字は1,000人当たりの不登校児童・生徒数

平成29年2月には、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律（教育機会確保法）」が施行されました。この教育機会確保法は、「学校復帰」を大前提としていた従来の不登校対策を転換し、学校外での「多様で適切な学習活動」の重要性を指摘しているものであり、不登校児童・生徒の無理な通学はかえって状況を悪化させる懸念があるため、子供たちの「休養の必要性」を認めています。

そして文部科学省は、同法第7条に基づき、平成29年3月31日、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する基本指針」を策定し、さらに、令和元年10月25日には、「不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）」を発出しました。この通知では不登校への支援の視点として、「不登校児童生徒への支援は、『学校に登校する』という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要があること」が述べられています。

さて、不登校の理由は「無気力・不安」や「人間関係」「家庭の問題」「進路に係る不安」「学業の不振」「生活リズムの乱れ」など様々であり、また、複合化・多岐化している傾向にあります。本区では、このような状況に適切に対応し、新たな不登校児童・生徒を生まないため、次のような取組を行っています。

- ①出欠状況の確認（毎月10日）
- ②出欠状況を基に、各校への聞き取り調査及び訪問（指導課および教育研究所スタッフ）
- ③適応指導教室（白鳥教室）への円滑な引き継ぎ
- ④教育研究所にSSWを配置（R2年度…1名→R3年度…2名に増員）

特に「適応指導教室（白鳥教室）の一層の充実」及び「SSWの一層の活用」は、本区における不登校対応の大きな柱として位置付けております。「適応指導教室（白鳥教室）」及び「SSW」事業に関しましては、教育委員会としても、引き続き、より効果的な運用・活用方法等について検討してまいります。それぞれの詳細については、後頁をご覧くださいと思います。今後も引き続き、行政と学校、保護者、地域等が連携を一層深め、子どもたちを「誰一人取り残さない教育」を目指して、共に歩んでいきたいと思っております。

# 目次

## ◇ 所長挨拶 巻頭言

## ◇ 目次 1年次の先生方に寄せて… (1)

- 1. SSWの活動 …………… (2)
- 2. 白鳥教室(適応指導) …………… (3)
- 3. 教育研究所の所内研究 …………… (4)
- 4. 教育課題調査研究 …………… (4)
- 5. 幼児教育 …………… (5)
- 6. 若手教員育成研修1年次 …………… (6)
- 7. 若手教員育成研修2, 3年次 … (6)  
中堅教諭等資質向上研修 …………… (7)
- 8. 教育情報資料及び教科書 …………… (7)
- 9. 編集後記 …………… (7)

本号では、所長の巻頭言にあったように、今年度より2名配置となったSSWが担っている業務や実際の対応等と、白鳥教室での適応指導について具体的にお伝えすることを重点としました。

また、教育研究所の業務の一つである「学校経営支援」については、各校園からの具体的な依頼は今のところなく、紙面の関係上、割愛いたしました。



## <1年次の先生方に寄せて ~「学ぶ」は「真似<sup>まね</sup>び」~>

指導課指導主事 山本 孝之

今年度から、千代田区立学校園の初任者・新規採用教員としてスタートを切った8名の先生方。私も、この4月に指導課に着任してから、これまで若手教員育成研修を通して、ともに学んで参りました。今年度は緊急事態宣言の影響により、なかなか対面形式での研修が実施できませんでした。同じ1年次教員として、お互いの考えや悩みを共有する機会が少なく、不安も大きい中でのスタートだったのではないかと思います。しかし、どの研修でも、自己の課題解決に向けて、主体的に研修に参加する先生方の姿が印象的でした。夏季休業中に実施した集中研修では、「子どもの力を伸ばす確かな『保育力』『授業力』を身に付ける!」のテーマの下、校種の枠を超えて、先生方がお互いの実践について熱心に協議する姿も見られました。

研修も、まとめの時期が近付きました。できることを一つでも増やそうと日々、全力で励んでいることと思います。これからも1年次教員として、管理職の先生方や学校の先輩方からご指導いただいたこと、そして同期の仲間たちの姿からたくさんのごことを「真似<sup>まね</sup>び」、自分の「学び」に変えていってほしいと思います。皆さん一人一人の、益々の成長を楽しみにしています。



# 1 スクールソーシャルワーカー（SSW）の活動

## 新体制でスタート！

昨年度まで1名配置であったSSWですが、今年度より増員となり、新たに2名体制で臨んでいます。また、2名とも千代田区には今年度からの勤務であり、完全にまっさらな状態でのスタートとなりました。この半年間、対応について様々検討し、懸命に取り組んで参りました。学校をはじめ関係諸機関と連携しながら取り組めたことを、心より感謝しております。引き続き、子どもや保護者に寄り添い力尽くして参りますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

あっという間の半年でしたが、SSWとして取り組んできた成果も、徐々に実感しているところです。今後も、次のような関わり方を大事にしていこうと思います。

まず、自宅に引きこもっている子どもには、SSWが自宅を訪問し、本人との関係をつくった上で、学校その他の関係機関との交流が広がるようつなげていきます。

また、教室に入れずにいる子どもには、SSWと学校が連携して登校を支援、教室で過ごせるよう配慮していきます。

さらに、不登校や学習面のことで親子関係に問題が生じている場合には、子どもや保護者とそれぞれ面談を重ねることで、SSWが子どもの心理や置かれている状況を代弁し、保護者の受容的な態度を引き出していこうと考えています。

児童生徒の背景には、様々な問題が複雑に絡み合っていることが多く、簡単に状況が改善しないことが多いものです。

学校が不登校やいじめ、その他、家庭環境の問題などを察知した場合、校内チームにて早期に支援策を検討し、他機関との役割を明確にしながら連携を図り、状況改善に取り組んでいくことが重要であると強く感じています。

SSWはチームの一員として、福祉的な観点から支援体制をコーディネートいたします。

役割を明確に  
早期支援を

## そもそもSSWの職務とは

SSWは、いじめや不登校、暴力行為、児童虐待など、生活指導上の課題に対応するため、社会福祉等の専門的な知識や技術を用いて、児童生徒が置かれた様々な環境に働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりして、問題を抱える児童生徒に支援を行うために配置されています。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり学校や家庭環境が変化し、千代田区内でも、昨年度より不登校が増加し、様々な生活場面においても目に見える形で、その影響が出ている案件をたびたび見聞きします。

すなわち、支援を必要とする児童・生徒がますます増えているということであり、SSWとして、できることから少しずつでも対応していこうと思っています。

### スクールソーシャルワーカーの職務内容

- 問題を抱える児童生徒が置かれた環境への働きかけ
- 関係機関とのネットワークの構築、連携・調整
- 学校内におけるチーム体制の構築、支援
- 保護者、教職員等に対する支援・相談・情報提供
- 教職員やSLS等への研修活動

文部科学省「スクールソーシャルワーカーの活用事業実施要領」参考

どうぞ、各学校管理職にご相談の上、ご依頼ください。

【担当】指導課 山本孝之 指導主事 教育研究所 SSW 朝岡右子（記） 則岡陽香（記）



## 2 白鳥教室（適応指導）

白鳥教室は、様々な理由で登校できない子どもが、安心して過ごせるための教室です。家庭や在籍校と連携し、子どもの意欲を尊重しながら指導や支援を行っています。

### （1）令和3年度の状況

今年度は、10月までに小学生6名、中学生15名の計21名が登録しており、昨年度末の登録者数（小学生8名、中学生9名、計17名）と比べて、増えてきています。また、小学校低学年の問い合わせが、増加傾向にあるのも特徴です。

子どもが白鳥教室を利用する目的や通うペースは様々です。週1回、1時間程度の通室から始め、集団に慣れる練習をする子もいれば、毎日10時～15時まで過ごす子もいます。白鳥教室に通いながら、学校に通う日を徐々に増やしている子もいます。それぞれの心の回復や成長の段階に応じて、子どもたちは指導員と相談しながら、白鳥教室をどのように利用するかを自分で決めています。

### （2）学習について

子どもたちの学年も学習の習熟度も大きく異なることから、学習は自学自習が基本です。各自が持参した教材で学習を行い、分からない時は指導員に質問します。中には、担任の先生が出した課題に取り組み、それを提出することで在籍校とつながりをもっている子どももいます。

在籍校から配付されたタブレットでドリル学習を行ったり、在籍校と相談の上、オンライン授業を受けたりすることも可能です。



教室の様子

### （3）体験活動について

新型コロナウイルス感染症の影響で、この2年間は白鳥教室の活動にも様々な制限がありました。中でも、子どもたちにとって有意義な体験や学びになるよう、在籍校や保護者の理解・協力を得て、活動を工夫してきました。

栽培活動では、初めてスイカづくりに挑戦しました。自分たちで受粉を行うことで、雄花と雌花に分かれている植物があることを初めて知った子どももいました。また、収穫したピーマンやオクラなどの野菜は、家庭に持ち帰ってから食すことで、食育や家族のコミュニケーションの一助にもなりました。



栽培活動で育てた花を  
子どもたちが生けました

昨年度の3学期からは、月1～2回、千代田小学校の体育館をお借りして、スポーツを行っています。卓球やポッチャなどの軽スポーツは日常的に行っていますが、バドミントンやソフトバレーボールなどで思い切り体を動かす時間は、学校を休んでいる子どもたちにとって貴重な機会です。それぞれに活動を楽しむ様子が見られ、次はこのスポーツがしたい、と意欲的な発言も聞かれるようになりました。

また、講師の先生をお招きし、『地球の歴史と化石のはなし』というテーマで講義を行っていただきました。先生のお話の後には化石割り体験も行い、知識と体験の両面から理解を深めました。詳細は後日、改めてご紹介します。

白鳥教室への登録を検討される場合は、まず、在籍校の担任や管理職と、その旨ご相談ください。その上で、保護者から教育研究所（03-3256-8446）に連絡していただきます。その後、本人・保護者に教室を見学していただき、白鳥教室での過ごし方や登録手続き等について、指導員より説明を行います。

【担当】指導課 山本孝之 指導主事 教育研究所 適応指導員 新井聡美（記） 宮森 巖

### 3 教育研究所の所内研究

今年度は、中央教育審議会答申「『令和の日本型教育』の構築を目指して」に関連したテーマを各所員が設け、レポートとして発表し意見交換を通して学び合いました。各校園の支援につながるよう進めています。10月までに取り上げたテーマ等は、次の通りです。

月 日	テーマ	主な内容
6月17日	個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて	・多様化する子供たち、個に応じた指導と協働的な学び、探究的な学び、学校の役割等
7月26日	特別支援教育の充実に向けて	・発達障害のある子供を育てた保護者からみた「保育と教育」の現状と課題
8月 5日	SDGs その歴史的背景と概要	・「なぜ今、SDGsなのか」 ・演習「SDGs チャレンジシート」
8月 6日	幼児教育で大切にしたいこと & 小学校教育へのバトン	・幼児教育の改善、小学校教育との接続 「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」
8月25日	ソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と実践	・子ども自身がもっている能力や資源に焦点を当てる心理療法（講義と演習）
9月15日	コロナ時代の教育を考える～教育再生会議提言と中教審答申より～	・「減らす」視点、日本型の「強み」、ファシリテートする力、「ニューノーマル」等
10月13日	学校の危機管理	・「地震と津波」、東日本大震災（釜石の奇跡、大川小の悲劇）、危機管理マニュアル等

今後のテーマ…「社会全体で子育てを支えるとは」「社会的養護の現状と課題」を予定しています。

【担当】 教育研究所 宇田川嘉一（記） 長田真理子

### 4 教育課題調査研究

今年度は研究主題を「『すべての児童・生徒にとって、主体的に思考を深められるICTの活用』～一人一台タブレットを用いた個別最適な学びと協働的な学びの充実～」としました。特別支援教育担当教員を交えて委員15人が分科会に分かれそれぞれのテーマを設定し、調査研究や研究授業を進めています。また、Teamsの新たな機能について見聞を深め、分科会ごとにオンラインによる情報共有・意見交換、研究会のグループディスカッション等を活発に行っています。

夏季研究会は、年間講師である先生よりご指導いただきました。多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子ども主体の問題解決型授業実践を行うこと、それを実現するためのICTの効果的な活用を追究すること等ご助言をいただきました。

OA 分科会 テーマ【全ての児童生徒が活躍できるICT機器を効果的に活用した授業づくり】

授業 11月16日 昌平小学校 5年 算数「整数の性質を調べよう」

OB 分科会 テーマ【児童・生徒が主体的に活動し、思考を深め表現することができる授業展開の工夫～ICTとアナログの効果的な利活用～】

授業 9月30日 九段中等教育学校 2年 歴史「室町文化」

※授業の録画映像を視聴し、エクセルの協働編集で気付きを入力して協議

OC 分科会 テーマ【タブレットでつながりあい、学び合う子どもたち】

中学校1組と小学校(3校)ステップ教室をつなぐ交流「学校紹介をしよう」

授業 10月22日 みんなでつながろう会～「はじめまして」の会～

第9回研究部会（2月7日）には、本部会の委員が授業者・発表者となって検証授業と研究報告会を行うとともに、講師の先生からご講評・ご講演をいただく予定です。調査研究の成果等をまとめたリーフレットも作成中で、各校にて活用し教育実践に生かされることを願っています。

【担当】 指導課 塚田恭平 指導主事 子ども総務課 相場奨太 指導主事  
教育研究所 長田真理子（記） 木暮 温 額賀 聡

## 5 幼児教育（3年次研修、保育訪問、保幼交流研修）

### （1）3年次研修 ■多くの先生方が研修に参加できる工夫■

今年度は、研修のねらいを、「1日の保育を振り返り、次の保育の指導に活かす能力を身に付けよう～保育の記録から～」としました。研修の主な内容、成果は以下の通りです。

#### ① 他園の先生の保育を見て学ぶ

A 幼稚園の4歳児担任である教諭の保育を、2年次研修生3名と一緒に観察し協議会を行いました。研修生は昨年度、コロナ禍で他園の保育を見て学ぶことができませんでした。そのため、この研修では、援助の具体的な方法はもとより、園の環境を熱心に見たり、教材の質問をしたりし、より積極的に他園の環境を学ぼうとする姿が見られました。



保育観察

#### ② 講演会の開催

記録の方法の一つである、「保育ウェブ」についての講演会を7月26日にリモートで実施しました。講師の先生を招聘し、「子どもの姿から生まれる保育ー保育ウェブを活用しながらー」というテーマで、ご講演をいただきました。リモートのよさを生かし、講演会の参加対象を、区内の幼児教育に関わる全ての園、施設に広げました。その結果、区内公立幼稚園、こども園、保育園、認証認可保育施設から、30名以上の先生方が参加しました。講演の中では、研修生であるB幼稚園5歳児担任である教諭が、保育実践をもとに保育ウェブ図を作成したり、各参加園も数名で「保育ウェブ」をつくるワークを実施したりしました。ある保育園では、早速「保育ウェブ」を協議会に活用し、活発な意見交換がなされました。

保育の記録は、記録を後日、複数の保育者で読みこむことで、幼児の理解が深まったり、保育者の願いやねらいを確認したりすることができます。また、記録の方法は様々あり、その時々、ねらいに応じた記録の方法を選び、幼児理解を深めることが、保育の質の向上につながっていくと考えます。研修生は保育観察後の協議会で「保育ウェブ」を活用し、保育の見通しをもったり援助の課題にも向き合ったりすることができました。

### （2）保育訪問 ■参加者全員が発言する協議会を目指して■

コロナ禍の訪問を受け入れていただき、8園全てを訪問しました。訪問では、保育者それぞれが思ったことを出してもらい、自分とは違う考え方や見方にも触れることで、多様性を受け止め幼児理解が深まる機会となるようにすると同時に、小学校との連携を配慮し、特に低学年の学習についても触れることができました。



グループ協議

保育観察後、協議会では出された課題を踏まえ、当日の保育の一場面の動画を参加者全員で視聴しました。参加者は、幼児がどのような気持ちで行動をしたのか、この活動が幼児期の終わりまでに育てほしい姿のどのような経験とつながるのか等の視点で、各自が分析し、その後グループで自分の考えを伝え合い、様々な捉え方があることを実感しました。この協議は誰の意見も受け止め、そういう見方もあるのだと捉えることが大切で、保育者は皆、協議を通して多様な捉え方を学び合うことができたかと確信しています。

### （3）保幼交流研修 ■研修生の取組を伝える■

教育委員会の研修の一つとして、今年度は、千代田幼稚園に四番町保育園より保育士が、四番町保育園に千代田幼稚園から幼稚園教諭が派遣され、一年間研修を行っています。目的は、保育園と幼稚園双方の見識を広げるとともに、質の高い幼児教育を求め、それぞれの経験を異なる場で生かすことです。両園では学びの多い研修となるよう、体制を整え研修生を受け入れています。研究所は、それぞれの園に月1回程度出向き、研修生の思いを聞き取り、研修の成果を研修生本人や該当園長、指導課、子ども支援課等と共有し、研修生が充実した研修となるよう、また、保幼交流が千代田区の保育の質の向上につながるよう努めています。

【担当】 指導課 戸栗大貴 指導主事

教育研究所 大関邦子（記） 宇田川嘉一 長田真理子

## 6 若手教員育成研修 1 年次

### (1) 校外における研修

堀米教育長の開講式講話及び挨拶から開始した初任者研修会は、山本指導課長・研究所長による講義等をはじめ、回を重ねるごとに内容の濃い研修として進められました。今年度は、幼稚園・こども園では 2 名、小中学校では 6 名が研修の対象です（該当者には夏季集中研修を別途開催）。

以下に紹介する全 10 回の研修会には、校種や職種によって参加の有無が規定され（幼稚園・こども園＝第 1,5,8,10 回に参加、小中学校＝全回に参加、養護教諭＝1,4,6 回に参加）、それぞれが別枠の指定された研修会でも研鑽を積みながら一年を過ごします。

■第 1 回（4 月）…開講式、各種講義、■第 2 回（5 月）…模範授業の参観・協議、  
 ■第 3 回（6 月）…食物アレルギー・各種教育課題の講義等、■第 4 回（7 月）…各種講義、  
 ■第 5 回（8 月）…メンタルヘルスセミナー・各種講義、■第 6 回（10 月）…学校訪問研修、  
 ■第 7 回（11 月）…小学校研究授業・協議、■第 8 回（11 月）…幼稚園研究保育・協議、  
 ■第 9 回（1 月）…中学校研究授業・協議、■第 10 回（2 月）…閉講式、各種講義 等。

また、上記の 10 回分とは別に、夏季集中研修会（今年度の期限付き教員は対象外）が行われ、午前 Teams による集中講義と演習、午後は研究所に集まりグループごと（同校種及び異校種）に各研修生が持ち寄った指導案の検討を行いました。コロナ禍の状況を勘案したハイブリッド型の研修でしたが、研修生の意欲的な発言や異校種への関心の高さ等が光る時間となりました。集中研修会の締めくくりには堀米教育長も合流して研修生を激励し、重ねて山本指導課長より称賛の言葉と、講話主題である「2 学期の保育・授業、わたしたちはこう変える！」に沿った今後の具体的な取組課題が発出されました。今年度後半の研修生一人一人の実践が、楽しみでなりません。

さらに、第 6 回では都立江東特別支援学校の見学、第 7,8,9 回では各校種での研究授業及び協議を通して、視野を広げ実践研究者としての資質向上を図ってほしいと願っています。

### (2) 校内における授業に関する研修

1 学期に、授業等の参観を通して、教師と子どもの関わり方や学級づくりについて指導助言しました。そこでは、各校の校長・副校長が同席し、初任者は改めて研修の意義を教育研究専門員とともに、共通理解することができました。2 学期には、学習指導案の作成や教材研究について理解を深めた初任者は、授業後の協議等を再構成指導案や事後授業に反映させ、今後の課題を明らかにしていくことができ、その研修ぶりは流石でした。

【担当】指導課 山本孝之 指導主事 教育研究所 額賀 聡（記） 宇田川嘉一

## 7 2・3 年次研修、中堅教諭等資質向上研修

### (1) 2 年次研修

初任者研修を修了した教員が、授業研究を通し、授業のねらいを明確にもつこと、児童・生徒主体の問題解決的な学習を意識すること等、「授業力」の基礎を集中的に習得する研修です。さらに、東京都教員人材育成基本方針に示された教員に求められる力の中の「学習指導力」「生活指導力・進路指導力」等の向上を図っていきます。教育研究所における半日研修は次の計画で進めています。

実施月日		主な研修内容
1	4月22日（木） 和泉小学校	・開講式及び2年次研修に向けた自己の課題の設定（事前課題） ・模範授業の参観と協議 和泉小学校 主任教諭授業 4年 国語
2	7月30日（金） オンライン	・講義とグループ協議「学習指導案作成の課題と解決」 ・講義、全体会協議 特別支援教育研修 「人的環境のユニバーサルデザイン」
3	2月14日（月）	・講義と演習「SDGs の概要と教育のかかわり」 ・プレゼンテーション「自己の課題とさらなる授業力の向上」 ・閉講式

【担当】指導課 塚田恭平 指導主事 教育研究所 宇田川嘉一（記） 木暮 温



## (2) 3年次研修

2年次研修の成果と課題を踏まえ、授業研究(2回)を通した「授業力」「外部との連携・折衝力」「学校運営力・組織貢献力」等の、拡充を図るための研修です。今年度の教育研究所における半日研修(2回)は次の通りです。

1	4月27日(火) オンライン	・開講式 ・3年次研修に向けた自己の課題の設定(事前課題) ・講義と演習「学校と関係機関との連携～虐待、発達支援、不登校等～」
2	2月24日(木)	・講義「学校経営への参画、組織貢献」 ・プレゼンテーション「授業実践を基にした後輩教員へのメッセージ」 ・閉講式

【担当】指導課 塚田恭平 指導主事 教育研究所 宇田川嘉一(記) 木暮 温

## (3) 中堅教諭等資質向上研修

千代田区教育委員会が主管する全8回の本研修のうち、教育研究所では授業研究に関わる4単位の研修を指導課と協同して実施しています。今年度の授業研究に関わる受講対象者は8名です。研修内容は、①指導教諭による授業実践を基にした講義・演習、②A分科会研究授業(富士見小学校5年理科「台風と天気の変化」)、③B分科会研究授業(翹町小学校4年算数科「およその数の表し方を考えよう」)、④自校の若手教員の授業に対する指導・助言となります。このうち、本号では④について簡潔に紹介します。

翹町小学校3年次若手教員の6年社会科「武士の世の中へ」の授業実践に当たり、受講者である教諭は「問い」に焦点化し、「つかむ問い」「つなぐ問い」「育む問い」について事前指導を行い、教育研究専門員とともに授業観察に臨みました。授業後の協議の場では、「問い」の他に「めあて」「資料」「協働的な学び」等に触れて若手教員への指導・助言を行うことができました。

このような研修を通して、中堅教諭が若手教員の授業改善や授業評価に関わりながら自身の授業力を向上させるとともに、若手教員に対する指導力も着実に身に付けています。

本研修での学びを生かして、学校運営の一翼を担うミドルリーダーとしての自覚と意識をより高め、チーム学校の中核となってこれまで以上に自校の教育課題に向き合ってほしいと願っています。

【担当】指導課 戸栗大貴 指導主事 教育研究所 木暮 温(記) 長田真理子

# 8 教育情報資料及び教科書

## (1) 教育情報資料

情報資料室では、文部科学省が発行している「初等教育資料」や「中等教育資料」、他に「総合教育技術」、「指導と評価」、「幼児教育じほう」等、各校園でも実践の参考となる資料が、バックナンバーも含めそろっています。その他、社会の教育事情を知るうえで有用な教育情報誌や区内各園小中学校からの園・学校だより、研究発表資料、都内外の行政機関から刊行された資料についても整えられ、閲覧が可能です。

## (2) 教科書と教科書展示会

現在使用している、区立小中学校・中等教育学校の教科書を展示しています。また、特別支援学校や職業科高等学校等の一部の教科書、拡大教科書についても閲覧が可能となっています。令和4年度より使用される高等学校の教科書が今年度採択にあたるため、6月には一か月間、教科書展示会を教育研究所で実施し、延べ約40人の方々が閲覧されました。

【担当】指導課 田中慎太郎 主事 教育研究所 宮森 巖(記) 大関邦子

## <編集後記>

コロナ禍の日々が、登校できない子どもたちを多くしている昨今だからこそ、私ども教育関係者のできることは何か、所報第82号を作成しながら所員一同、改めて思いを致す毎日です。